

3

BIG PICTURE

未来像

東北を
地域づくりの
トップランナーに

復興への4つのパラダイムシフト

第1、2章では、被災地で芽生えた未来への息吹を紹介した。紹介できたのはほんの一部であり、今、東北地域全体にそうした息吹が芽生えている。一つひとつの息吹はまだ小さいが、それらが集まって大きな風となったとき、東北にはまったく新しい未来像を描くことができる。2050年までを見据えて、この東北の未来を4つの視点から考えていきたい。

—— 原状回復を超えたチャレンジを

東北の多くの地域では、東日本大震災が起こる前から地域活性化の限界に直面していた。たとえば、自然の脅威に対する力での対抗の限界、国・地方の役割分担システムの限界、人口減少・高齢化など地域社会維持の限界、従来型インフラ整備・維持管理の限界の4つ(#01)。これらを超えることができず、多くの地域が衰退の危機に直面していた。震災は、そんな東北をいよいよ待ったなしの状態に追い詰めたのだ。東北の復旧

復興は、当面の問題を解決するだけでなく、従来の限界を乗り越える変革の試みでなくてはならない。未来への息吹とは、原状回復を超えて将来の飛躍につながるチャレンジである。

そこで東北の未来への道りを次のように描いてみた。震災からの5年間は着実な復旧への取り組みと、第1、2章で見てきたような新たなチャレンジである。なかには着実に実を結び、地域に根を下ろす取り組みも出るだろう。次の5年間にはそうした従来の限界を超える成功が拡大し、全国から東北スタイルと称され評価されるようになる。さらに時間をかけて地域の成長を促すことにより、2050年には東北がわが国の持続可能な地域づくりのトップランナーとなるという具合だ。

変革を着実に進めるうえで、4つの限界に対応した、4つのパラダイムシフトが必要となる。次項から、それぞれについての現状と、将来的な実現の仕方について見ていく。

#01 2050年に東北を世界の先進地域に

復興への4つのパラダイムシフト

